

第2号



MINATO TIMES

編集：
横浜市立
みなと総合高等学校
045(662)3710
総合学科推進 M タイ担当
発行責任者 KT
編集 MN



エトセトラ

-Ricky Tom-

Growing up in Hawaii, I learned that our state was called the "Melting pot of the Pacific" because a wide variety of people from different ethnic backgrounds all live there. In high school I had friends and classmates of all ethnicities. Burmese, Filipino, German, Spanish, and of course Hawaiian, the list goes on. I thought I was "Lucky to live Hawaii". After many years living here in Japan though I think Japan would be a better fit for that name. "The melting pot of the Pacific."

In Hawaii, I naively thought that my school was very "international". I noticed a few cultural differences between us, but more often than not, we were more alike than we were different. Visual differences aside we were all just kids growing up in Hawaii. Chinese American, African American, Vietnamese American, we were all just American kids.

Japan on the other hand is known to have relatively closed society. But interestingly, I first heard Swedish spoken in Japan. I first ate Burmese food in Japan. I sang in Mongolian with a Mongolian restaurant owner right here in Japan. In my years here I've met Russians, Swedes, Nigerians, and Venezuelans, all speaking in their native tongues. I've had to converse with foreigners in Japanese because their native language wasn't English. Is Japan really that closed? Living here has been eye opening. Here I came from the so called "Melting pot of the Pacific" and had international culture shock in a "closed country". How ironic.

Maybe Japan may not be a melting pot just yet. But international opportunities are endless here. Maybe the phrase should really be "Lucky you live Japan."



Bridge Across the Pacific

一日目、姉妹校のバディと、二日目、市内研修、ホストファミリーとの対面、ホームステイ開始でした。バンクーバー空港から直接姉妹校に訪問して、現地担当バディと挨拶を交わし一緒にピザでランチをしました。その後、時差ボケがピークの中、グランヴィルアイランドやスタンレーパークなどを視察しながら、ホストファミリーとのピクニックやドックツアーなどを行いました。笑顔が素敵なカナディアンファミリーのお迎えで、生徒たちの緊張はすぐにとけたようでした。

二日目、それぞれホストと週末を過ごしました。ホストとの過ごし方は、家でゆっくりしたり、ショッピングやスポーツ観戦、アメリカまで足をのびたりと、様々だったようです。

五日目、全日授業体験に挑戦しました。ブリタニアには多様な科目や木工・自動車整備・調理などの実習的な授業が豊富で、セカンダリースクール(中学生の授業もある)のため意外に授業にはついていけたという声を多く聞きました。この日の放課後は簡単なfirewell partyを開いてもらい、写真を取り、ハグをかわしてブリタニアを後にしました。

四日目、姉妹校での午前授業体験でした。ブリタニアでは、生徒が授業中にリンゴを食べながら積極的に授業に関わっているのを見てショックを受けたようでした。飲み食いしながら授業を受けるというのは日本ではちょっと考えられませんが、一方で、授業には積極的に参加するのがカナダスタイルですから、寝ている人や座っていないだけの人は一人もいません。

みなと総合のカナダ国際交流プログラムに参加すると、人の温かさや繋がりを実感します。若者の国際交流の価値を知っている大人たちが国境を越えて繋がっているのです。姉妹校提携を結んだ当時の校長であるランディ・クラーク先生は、我々がバンクーバーに行くに必ず食事に招いてくれます。そして、ゆつくりとした口調で、彼自身が若いころに経験した日本との交流、自分の生徒が経験した日本との交流を熱く語ってくれます。ブリタニアの先生たち、これまでプログラムに携わった人たち、色々な人たちの想いでこのプログラムが続いているのだとあらためて考えさせられた一週間でした。

学校で授業で習った中国語を使い、ぜひ現地の人々と話したいと思っていた高谷さんだが、中国を訪問した際、日本で得た知識と違いと分からないことがあるという言葉を身にしてみても良かった。料理は同じ料理でも地方によって味が違う美味しかったそうだ。

平成二十五年二月二十二日、今年も二十人の本校生徒がバンクーバーの姉妹校、ブリタニア・セカンダリ校へと旅立った。引率した蛭田先生に、お話を伺ってみよう。

みなと総合高校の目玉の一つであるカナダ国際交流プログラムは今年で三回目ですが、無事行程を終えた後の達成感はないかな味わうことができない貴重な経験だと思えます。

前回姉妹校を訪問したのは、ちょうどバンクーバーオリンピックが終わった一か月後です。二〇一〇年でした。その後、東日本大震災や原発問題、現地の様々な事情のため、しばらくはメールや手紙のやりとりしかできませんでした。この度、姉妹校ブリタニアセカンダリへの訪問とホームステイ体験の実現ができました。

行程をダイジェスト的に振り返ってみます。



現地の生徒と交流する本校生徒

Canada 国際交流プログラム

途中 UBC(University of British Columbia)のキャンパス見学をして、ユーティネーターの向井さんから、「願わくはわれ太平洋の架け橋とならん」という言葉で有名な新渡戸稲造の話を聞きまし。日系カナダ人の向井さんは、まさに日本とカナダの架け橋になるべく、若者の国際交流をサポートする仕事をされています。今回のプログラムに参加した20名にもぜひ架け橋になってほしいというメッセージを残し、笑顔で見送ってくれました。

留学生 Gabriella Lloyd

2012年11月から3ヶ月間、1年5組で生活した LLOYD, Gabriella ことギャビーが、母国のオーストラリアへ帰国しました。明るいギャビーからみんなへのメッセージです!!

My time at Minato Sohgo has been brilliant. I was incredibly nervous on my first day but was welcomed warmly by everyone therefore allowing me to easily feel comfortable. I have met many lovely people and made fantastic friends. The support from people around me at school, I feel, was beneficial to me finding my feet in Japan.

For me, going to a foreign country on exchange was an incredibly daunting prospect but I have thoroughly enjoyed school here and am sad to leave.



連絡板

国際交流バディ募集中!!

本校が独自に実施している国際ボランティア制度が「バディ」制度です。国際交流に興味のある生徒はバディとして、留学生の日常のお世話や、また国際的な行事など、様々な活動において活躍しています。バディになるには月一回、お昼休みの定例会に参加し、登録するだけ。二年次から新規に登録もオッケーです! 詳しく知りたい方は、英語科の蛭田・森山・岸・大原まで。バディ活動は楽しいよ!→



高谷さん(三年)、中国へ

独立行政法人、国際交流基金、日中交流センター主催の、高校生「ふれあいの場」訪問事業で、本校の高谷陶陶さんが中国を訪問した。

学校の授業で習った中国語を使い、ぜひ現地の人々と話したいと思っていた高谷さんだが、中国を訪問した際、日本で得た知識と違いと分からないことがあるという言葉を身にしてみても良かった。料理は同じ料理でも地方によって味が違う美味しかったそうだ。

バディ便り

本校の国際交流バディ活動で、ニューヨークのパリーストリームセントラル高校とメール交換を行っています。今年3月、その中のペンパル5人が日本語研修旅行として横浜を訪問しました。

みな総バディは、東京都内観光や横浜案内などを行い2泊3日を過ごしました。3月29日は都内観光に付き合い秋葉原へ行きました。ニューヨークの高校生の興味は日本のサブカルチャー。アニメキャラクターのフィギュアを何体も購入している高校生もいました。それから日本の伝統文化輝く浅草を見学。その日は横浜にホームステイです。みな総バディもホストファミリーを引き受けてくれました。

翌日30日はあいにくの曇り空でしたが、みなとみらいやディズニーランドへ案内して楽しく充実した一日を過ごしました。最終日31日(日)は朝早く横浜駅でお見送り。たった2日間の交流でしたが、お互いにとっても充実した時間を過ごせました。これをきっかけにしてこれから先もずっと交流が続けばいいですね。

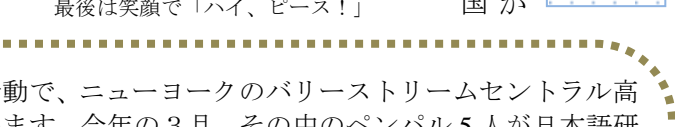
バディ担当：岸

Proverb
We are what we repeatedly do. Excellence, then, is not an act, but a habit.
「人は繰り返し行うことの集大成である。だから優秀さとは、行為ではなく、習慣なのだ」
Aristotle(アリストテレス:紀元前384-322) 古代ギリシャの哲学者。プラトンの弟子

徳光中学 来校

二月六日(水)、台湾の徳光中学から生徒十七人が来校し、本校の中国語の授業に参加した。

お互いに緊張して言葉少ない始まりだったが、日本の芸能人の話や、文化や学校、マンガの話など、様々なことについて、習った中国語と時折英語も交えながら会話が弾み、最後には笑い声であふれていた。



最後は笑顔で「ハイ、ピース!」

